

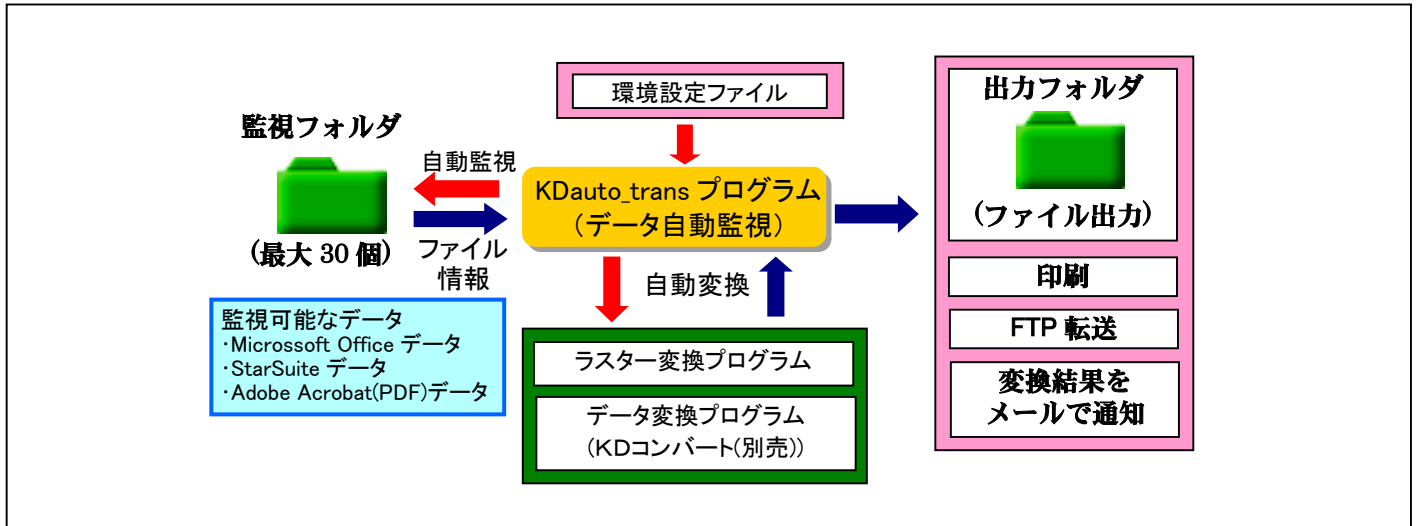
# KDauto\_trans機能強化版 (LINUX版)

監視付き変換ソフト



Kernel Computer System  
カーネルコンピュータシステム株式会社

本社：パッケージ販売部  
〒221-0056  
横浜市神奈川区金港町 6-3 横浜金港町ビル  
TEL：045-442-0500 FAX：045-442-0501  
URL：<http://www.kernelcomputer.co.jp>



## 【概要】

KDauto\_trans 機能強化版(LINUX版)はKDauto\_trans 標準版にDTPファイルをラスタに変換する機能を追加した製品となります。

KDauto\_trans 機能強化版は監視フォルダを監視して監視フォルダ内にあるファイルを「ラスタ変換プログラム」を使用して変換を行います。変換により作成されたファイルは出力フォルダへ出力されます。

出力フォルダへ出力されたファイルに対して印刷、FTP転送を行うことができます。

これら変換、出力、印刷、FTP転送の設定は監視フォルダ毎に指定することができます。

## 【特長】

1. DTPファイルをTIFFなどのラスタファイルに変換することが可能です。(DTPファイルを印刷可能なソフトが別途必要になります。WORDならStarSuite8、PDFならGhostscript7.05が必要になります)  
変換可能なDTPファイルの拡張子と変換に必要なソフトのバージョンは次の通りです。

DTPファイル	バージョン	拡張子
MS-WORD	StarSuite8	doc
MS-EXCEL	StarSuite8	xls
MS-PowerPoint	StarSuite8	ppt
StarSuite Writer	StarSuite8	sxw, odt
StarSuite Calc	StarSuite8	sxc, ods
StarSuite Impress	StarSuite8	sxi, odp
PDF	Ghostscript 7.05	pdf

※MS-WORD/EXCEL/PowerPointはStarSuite8の互換機能を使用して変換するため、これらのファイルの変換を100%保障するものではありません。互換機能はStarSuite8の仕様に従います。

2. 複数のDTPファイルをTIFFなどのラスタファイルに変換してひとつのファイルに纏めることが可能です。ラスタファイルはTIFFなどのマルチページが可能なフォーマットである必要があります。
3. 監視ディレクトリ毎にラスタファイルの変換方法を指定することが可能です。
4. 監視ディレクトリを最大30個まで指定できます。  
監視ディレクトリ内のファイルは日付の古い順かファイル名の昇順でピックアップされます。
5. 監視ディレクトリ毎に監視開始時間、監視終了時間の設定が可能です。
6. 監視ディレクトリ以下のディレクトリにあるファイルを処理することが可能です。処理されたファイルは指定された出力先に、監視ディレクトリ以下のディレクトリ構成と同じディレクトリ構成を作成してそこに出力します。
7. 処理後の出力ファイル名を指定することができます。監視ディレクトリにコピーされたファイルと同名+指定拡張子、

日付+指定拡張子の2種類から選択できます。

8. 変換処理の履歴を保存しておく履歴ファイルの生成が出来ます。実行時間や変換結果などの履歴情報の確認ができます。XMLフォーマットの履歴ファイルを作成することもできます。
9. 変換処理の内容をメールで送信することも可能です。変換処理が NG の時にのみメールを送信したり、常に結果をメール送信したりすることができます。
10. lpr コマンドを使用して処理後の出力ファイルを印刷することが可能です。処理後の出力ファイルが出力先プリンタで出力可能なフォーマットになっている必要があります。
11. 弊社の KD コンバートシリーズ（別売）を使用して「特長1」以外のデータ変換を自動処理することが可能です。殆どの KD コンバートシリーズが組み合わせ可能ですが、組み合わせることが出来ないものもあります。  
（購入を考えている KD コンバートシリーズまたは購入済み KD コンバートシリーズが組み合わせ可能かどうかは弊社までお問い合わせ下さい）
12. 弊社の KD コンバートシリーズ（別売）を使用して「特長2」以外の複数のフォーマットからなるファイルを特定のフォーマットのファイルに纏めて出力することができます。  
（購入を考えている KD コンバートシリーズまたは購入済み KD コンバートシリーズが組み合わせ可能かどうかは弊社までお問い合わせ下さい）
13. 弊社の KD コンバートシリーズ（別売）を使用して対になる2つの新旧ファイルを比較して比較結果を出力することが可能です。比較可能 KD コンバートシリーズは HPMGHP です。
14. 弊社の KD コンバートシリーズ（別売）を使用して複数の図面サイズのファイルを指定図面サイズにレイアウトして出力することが可能です。レイアウト可能 KD コンバートシリーズは HPLAYHP, RSCMP3RS です。
15. 監視ディレクトリにフォーマットの違うファイルがあってもフォーマットを自動認識することができます。フォーマット認識はファイルの拡張子で行います。拡張子はフォーマット毎に最大8個まで指定できます。フォーマット毎に使用するデータ変換プログラムと出力先のディレクトリを指定することができます。
16. KDauto\_trans 機能強化版の環境設定は GUI 画面から設定を行います。

### **KD コンバートシリーズとの組み合わせ例**

1. KDraster コンバート（ベクター/ラスター）を購入して組み合わせることによって DXF/DWG/HP-GI/OFI 等のファイルを TIFF 等のラスターファイルに変換することが可能になります。
2. KDraster コンバート（ラスター/ラスター）を購入して組み合わせることによって TIFF, JPEG, BITMAP 等のラスターファイルを TIFF, JPEG, BITMAP 等のファイルに変換することが可能になります。

## 【機能一覧】

KDauto\_trans 機能強化版の機能一覧です。

機能	OS
	LINUX
DTP ファイル変換処理 (※1)	○
監視ディレクトリ最大数	30 個
監視ディレクトリの開始終了	○
階層処理	○
出力ファイル名 (※2)	○
履歴の作成	○
メール送信 (※3)	○
プリントマネージャで印刷 (※4)	○
KD コンバートシリーズで変換 (※5)	○
複数ファイル処理 (※5)	○
比較処理 (※6)	○
レイアウト処理 (※7)	○
FTP 転送	○
環境設定を GUI で行う	○

※1：Microsoft Office ファイルは StarSuite8 の互換機能を使用して変換しますので、正常に変換できない場合があります。

※2：監視ディレクトリにコピーされたファイル名+指定拡張子、日付+指定拡張子の2種類が指定できます。

※3：sendmail をインストールしてメール送信環境を構築しておく必要があります。

※4：KD コンバートシリーズの変換処理で出力するプリンタが印刷可能なフォーマットに変換する必要があります。

※5：別途 KD コンバートシリーズを購入する必要があります。

※6：HP-GL 同士、HP-GL/2 同士のファイルが比較可能です。

別途 HPMGHP (HP-GL 同士、HP-GL/2 同士) を購入する必要があります。

※7：HP-GL, HP-GL/2, ラスターファイルがレイアウト可能です。

別途 HPLAYHP (HP-GL, HP-GL/2)、RSCMP3RS (ラスター) を購入する必要があります。

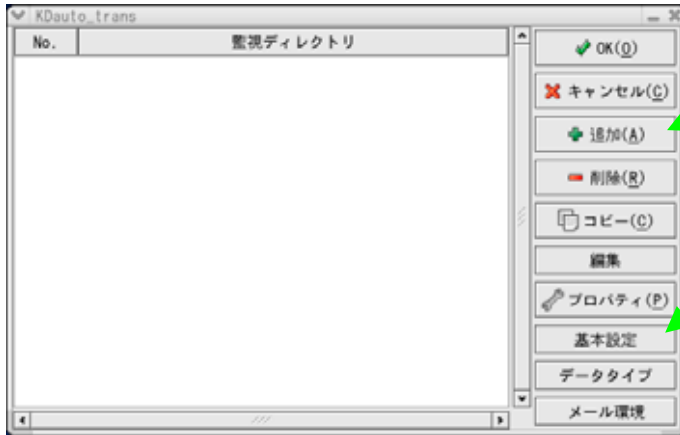
## 【環境設定ファイル】

KDauto\_trans 機能強化版の動作環境の設定は GUI 画面から行います。

環境設定ファイルを直接編集することは可能ですが、設定内容の入力ミスを少なくするためにも極力 GUI 画面から設定を行って下さい)

### ・環境設定

KDauto\_trans 機能強化版のインストールフォルダにある「paraset」を実行します。

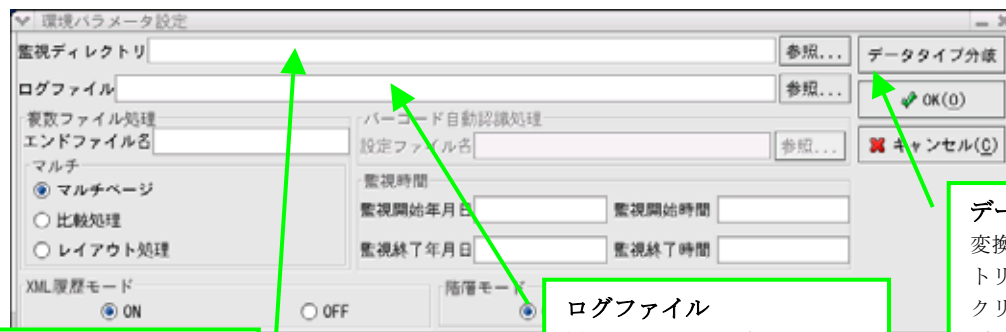


#### 追加ボタン

新規に設定を追加する。  
クリックすると「環境パラメータ設定」ダイアログが表示されます。

#### 基本設定ボタン

基本設定を行います。  
クリックすると「基本設定」ダイアログが表示されます。



#### 監視ディレクトリ

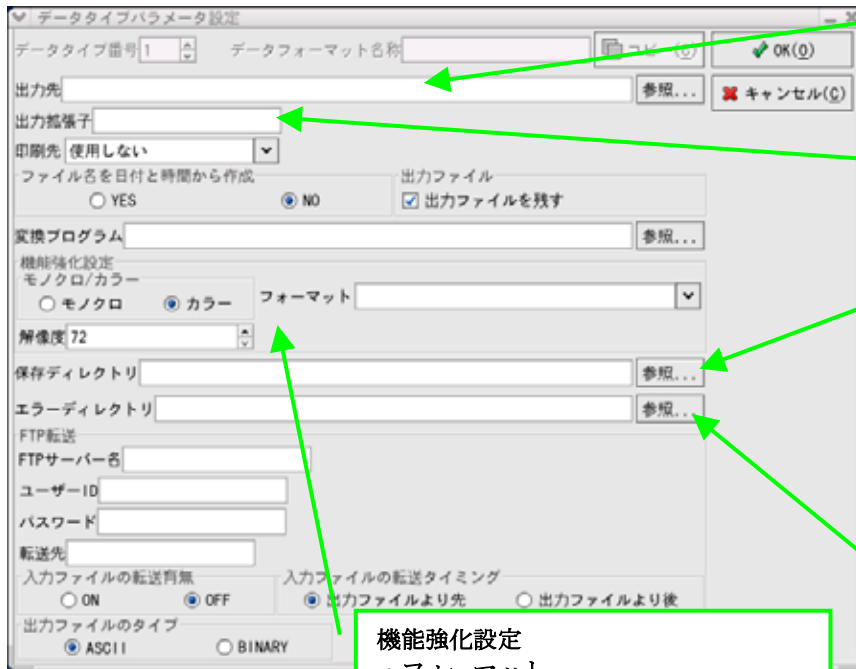
変換元ファイルがコピーされるディレクトリを設定します。  
処理終了後、変換元ファイルは削除されます。

#### ログファイル

履歴ファイルを作成して処理の結果を記述します。  
設定は任意です。設定しなくても構いません。その場合は、履歴ファイルを作成しません。

#### データタイプ分岐

変換プログラムや出力ディレクトリを設定します。  
クリックすると「データタイプパラメータ設定」ダイアログが表示されます。



**出力先**  
変換結果ファイルを出力するディレクトリを設定します。

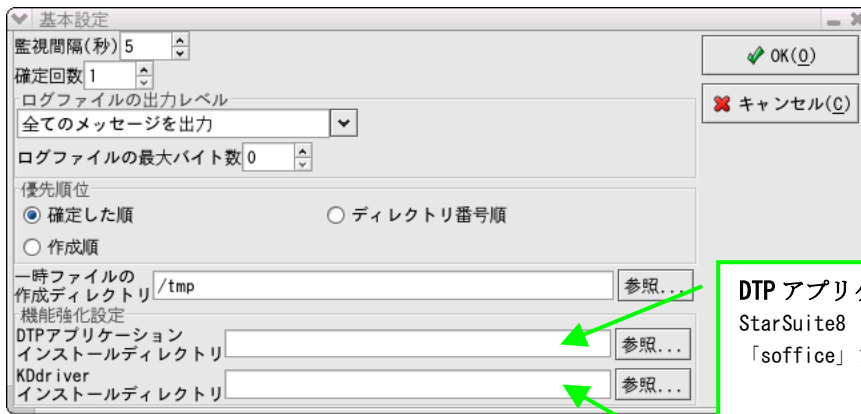
**出力拡張子**  
変換結果ファイルの拡張子を設定します。

**保存ディレクトリ**  
処理が終了した後に変換元ファイルを保存するディレクトリを設定します。設定は任意です。設定しなくても構いません。その場合は、変換元ファイルは保存しません。

**エラーディレクトリ**  
変換処理がエラーになった場合に変換元ファイルを保存するディレクトリを設定します。設定は任意です。設定しなくても構いません。その場合は、変換元ファイルは保存しません。

**機能強化設定**

- ・フォーマット**  
DTP ファイルをどのフォーマットのラスターファイルに変換するかを設定します。設定できるフォーマットの種類はモノクロ/カラー設定によって変わります。
- ・モノクロ/カラー**  
DTP ファイルをモノクロラスターファイルに変換するかカラーラスターファイルに変換するかを設定します。
- ・解像度**  
DTP ファイルを変換した結果のラスターデータの解像度を設定します。



**DTP アプリケーションインストールディレクトリ**  
StarSuite8 のインストールディレクトリ内にある「soffice」ファイルがあるディレクトリを設定します。

**KDdriver インストールディレクトリ**  
KDdriver for LINUX をインストールしたディレクトリを設定します。

## 【注意する点】

- ・ 機能強化処理を行っているとき **StarSuite8** のフォントキャッシュが大きくなり変換速度が遅くなっていきます。これは **StarSuite8** の機能ですのでフォントキャッシュの削除等は **StarSuite8** の仕様書を参照して下さい。
- ・ **Microsoft Office** ファイルは **StarSuite8** の互換機能を使用して変換していますので 100%変換できる訳ではありません。正常に変換可能かどうかは **StarSuite8** の仕様に依存します。
- ・ **KDauto\_trans** 機能強化版で PDF ファイルの変換を行う場合、元ファイルの用紙サイズや向きと違った結果になる場合があります。
- ・ PDF1.2(Acrobat3. x) で作成された PDF ファイルは 1143mm 以上の長さのデータを正常に変換できません。
- ・ PDF1.3(Acrobat4. x) 以降で作成された PDF ファイルは 4A0 以上の長さのデータを正常に変換できません。
- ・ DTP ファイルを変換時にダイアログが表示されてキー入力待ちになり処理が停止する場合があります。この場合はユーザが手動でダイアログを閉じない限りその状態のまま処理が停止します。
- ・ セキュリティの設定されているファイルを変換することはできません。
- ・ **KDraster Convert, KDcad Convert, KDprint Convert** を使用して変換する場合、一部のオプションは使用できなくなります。使用できなくなるオプションはファイルをまとめて処理するようなオプションで、**-batch, -merge** 等です。

## 【対応マシン】

RedHatES3

## 【VMware】

RedHatES3

## 【価格】

**KDauto\_trans** 機能強化版 : 35 万(税抜き)

※ **KDraster Convert, KDcad Convert, KDprint Gaconvert, KDprintout for driver** は別途購入が必要です。

※ **KDauto\_trans** 機能強化版には **KDdriver for LINUX** が同封されています。